




# 第3学年 体育科学習指導案

## 1 単元名

器械運動「跳び箱運動」

## 2 単元計画

時	1	2	3	4	5 (本時)	6
ねらい	学習の進め方を知る  (習得)	開脚跳びのポイントを知る  (習得)	自分の課題に沿って運動に取り組む  (活用)	台上前転のポイントを知る  (習得)	自分の課題に沿って運動に取り組む  (活用)	技を選択して、自分の課題に沿って運動に取り組む  (探求)
学習内容	○オリエンテーション	○基礎となる感覚を身に付ける。(動物歩き・馬跳び・うさぎ跳び・かえるの足打ち・ゆりかごなど)				
		○切り返し系(開脚跳び)		○回転系(台上前転)		○選択(切り返し系・回転系)
ICT	・プレゼンテーションソフト 	・動画撮影 ・デジタルコンテンツの活用 (学び支援機能)  				

## 3 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

### (1) 指導内容の「系統性」

第1・2学年では、「跳び箱を使った運動遊び」を通して、踏み越し跳び、支持でまたぎ乗り・またぎ下り、支持で跳び乗り・跳び下り、馬跳びなど跳び箱運動に結び付く様々な基本的な動きを経験し、身に付けられるよう学習を進めてきた。また、児童が自主的に動きを工夫し、楽しみながら運動遊びに取り組めるよう授業を展開してきた。中・高学年では、易しい場や条件の下で意欲的に運動に取り組むことができるようにするとともに、跳び箱運動の技と関連のある動き毎時間取り入れ、基礎となる感覚や動きを身に付けることをねらい、指導にあたるよう計画を作成している。中学校では、生徒の跳び箱運動に対する興味や関心、技能の状況などから自己の現在の力を知り、できる技をよりよくできるようにする。また、できそうな新しい技に挑戦することをねらいとした。

思考力・判断力・表現力等については、9年間を見通した課題解決的な学習を設定し、計画的に学習を進めることで、各学年で必要な力を育てていく。課題解決的な学習のスタイルを定着させることで、できる喜びを一層味わわせていく。

### (2) 指導法の「連続性」

#### ①つまずきと指導の工夫

##### (1) 技への不安感があり、意欲的に取り組むことができない

運動感覚が身に付くように、運動遊びに取り組む場を設定したり、落ちてても痛くないようにマットを敷いたりするなど、場を工夫する。

##### (2) 思うように上達しない

タブレットPCで動きを確認したり、グループで見合ったりすることで、自己の課題を明確にし、課題に合った易しい場で段階的に運動に取り組むことができるようにする。

#### ②きちんと身に付けさせておく内容・学びのつながり

##### (1) 跳び箱運動の行い方を知るとともに、自己の能力に適した基本的な技ができるようにすること




一つ一つの技のポイントを視覚的に押さえ、課題に合った場で運動に取り組むことができる環境を整える。また、よい動きをしている児童を価値付け、広げていく。

##### (2) 自己の能力に適した課題を見付け、その課題を解決するための活動を選んだり、考えたことを友達に伝えたりすること

自分の課題が確認できるようにタブレットPCを活用したり、グループで見合うポイントを事前に指導したりする。

#### 4 本時（6時間扱いの5時間目）

##### （1）ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い直す
学習活動	課題を発見する 知識・技能を習得する	何度も試行する	よさを共有する	
タブレットPC				

##### （2）展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
<p>1 学習の流れ、めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>自分のめあてに合った場を選んで、運動しよう。</p> </div> <p>2 場の準備をする。</p> <p>3 準備運動をする。</p> <p>4 感覚づくりの運動をする。</p> <p>5 台上前転の技のポイントを確認する。</p> <p>6 自分の課題に応じた練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPCで自分の動きを確認しながら運動に取り組む。</li> <li>・グループ内で動きを見合い、気付いたことを伝えながら運動に取り組む。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片足で踏み切ってしまう →踏み切り版に目印・踏み切り前に紅玉・ケンステップ</li> <li>・手前に手が着けない →跳び箱にテープで目印</li> <li>・着手ができない →マットで前転・低い跳び箱</li> <li>・腰が上がらない →重ねたマット・低い跳び箱・助走なしで「トン・トン・トーン」</li> <li>・落ちるのが怖い →細マット・跳び箱の両サイドにマット・低い跳び箱・重ねマット</li> <li>・後頭部が着かない →マットで前転・重ねマット・連結跳び箱</li> <li>・着地ができない →重ねマット・連結跳び箱</li> <li>・膝を伸ばして回れない →踏み切り板や跳び箱の上にゴム</li> </ul> </div> <p>7 整理運動をする。</p> <p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>9 片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを掲示して、児童に見通しをもたせる。</li> <li>・前時の良かった姿を紹介する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力して素早く、安全に準備をするように言葉を掛ける。</li> <li>・曲に合わせて、使う部位を中心にほぐすとともに、元気よく体を動かす。</li> <li>・児童が技へのつながりを意識できるように言葉を掛ける。</li> <li>・課題のある動画を見せ、どこを修正すべきなのかを考えさせながら、技のポイントをおさえる。</li> <li>・自分の課題に合った場を選んで運動に取り組むよう指導する。</li> <li>・技のポイントを確認できるように掲示物を用意しておく。</li> <li>・模範動画や自分の動き撮影して確認できるように、タブレットPCを用意する。＜問い直し＞</li> <li>・仲間同士で協力して運動に取り組んでいるグループや自分の課題に合った場を選んで運動に取り組んだり、よい動きをしたりしている児童を価値付けていく。</li> <li>・当初の課題を解決できた児童は、次の課題を見付け、運動に取り組むよう指導する。</li> <li>・なかなか課題を解決できない児童に対しては、友達のよい動きを真似させたり、ポイントを確認したりして支援する。</li> <li>・基本的な技ができるようになった児童には、さらに完成度を高められるように言葉を掛ける。</li> </ul> <p>★自分の力に合っためあてをもち、そのめあての解決のための場を選んで運動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸ばしている部位を意識させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に応じた場を選んで運動し、課題を解決できたか、友だちと技のポイントや出来栄を伝え合いながら運動できたか、友達の良さなどを中心に振り返るよう言葉を掛ける。</li> <li>・仲間と協力して素早く、安全に片付けをするように言葉を掛ける。</li> </ul>